

保育者と父母を結ぶ雑誌

2006年4月17日第3種郵便物認可
2021年8月1日(毎月1回1日)発行

【特集】

みんなで育つ！
『ちいさいなかま』
創刊50周年

これまでも、これからも
子どもの笑顔のために

ちいさい なかま

8月号

2021—NO.711

みんなで祝おう！
創刊50周年

実践を書くこと、
読むことの意味

——杉山隆一

コロナ禍が教えてくれる
「つながり」の力

——中西新太郎

父母と保育者の すてきな仲間づくりの五〇年

神戸健夫さん 愛知県立大学名誉教授

『ちいさいなかま』の創刊は、一九七一年八月、第三回の全国保育団体合同研究集会のときでした。

乾孝、小川太郎、近藤薫樹、羽仁説子のみなさんの「お祝いの言葉」が掲載されていました。それから五〇年、この月刊誌は続けられてきました。たくさんの保育雑誌が途中でやめるようになるのに、よく続けられています。なぜでしょうか。

『ちいさいなかま』誌が、「子育てを楽しくしよう」と、父母たち、保育者たちが子育ての仲間を大勢つくってきたからだと思います。

あらためて言うまでもありませんが、今日の子育ては、父母と保育者たちとの協力がなければ不可能です。それぞれの家庭や園で、一人ひとりの子どものかかえている問題を話しあい、考えあい、助けあってこそ、子ども

執筆者・担当者から
メッセージをお寄せ
いただきました

『ちいさいなかま』 創刊50周年 おめでとう！

.....

私たちは育っていくのです。その架け橋の役割を果たしてきたのが『ちいさいなかま』です。まさに、父母と保育者とが子どもたちのために協力しあって、すてきな仲間づくりをしてきた五〇年が、

おめでとう
創刊50周年!!

ちいさい
なかま

合研の速報係も
みんなやりました。
じいさんになった今も続く子育て
なかまの輪は、私の人生の
“おっきい財産”です。
吉原さち丸

“おっきいなかま”という風刺づかさを
連載させて頂いていたあの頃、
子どもを通して、たくさん
人と出会ったことが
できました。



吉原さち丸さん
（「おっきいなかま」一九九〇年
四月号〜一九九四年三月号連載）

.....メッセージ

『ちいさいなかま』の五〇年なのだと思います。

「子育て」とはなにか。どうしたら子どもたちは健やかに育つのでしょうか。ともするとわが子は、どうだろうかと心配されている方もおられるかもしれません。「だいじょうぶですよ。子どもたちは、あそびを楽しみながら仲間たちと、話しあい、考えあい、元気に育っていますよ」と知ることができるのも『ちいさいなかま』です。これからも『ちいさいなかま』とともに、父母たちと保育者たちが、協力しあって、すばらしい子育ての輪をひろげてゆきましょう。

みんなの「だっただらいいな」を集めて

池添素さん NPO法人福祉広場

子どもたちは、大人から安心をプレゼントしてもらい、信頼と尊重の二文字を大切にしています。でも大人にも夢があって、子どもたちにも夢があります。子どもたちにもプレゼントしたいことがあります。子ども

にとつては安心できる環境だけでよいのに、おせっかいで困ったものです。そこで、いろいろやってみたい大人たちに、子どもがプレゼントしてほしいものを教えてくれるのが『ちいさいなかま』です。これからも、子ども理解を深める手がかりをたくさん発信してください。

保育の現場では、家庭での頑張りの宿題を保育園に持ち込んでくる子どももいて、保育士の手と膝はいくつあっても足りません。子どものキモチを理解して保育を組み立てる難しさが立ちほだかっています。

一方、子どもが充電する場所であるはずの家庭はもつと深刻です。コロナ禍での仕事、親同士のつきあいなど、たくさんの制約があり、家庭では「しなさい」「やめなさい」のことが飛び交う毎日。ポストコロナを見ずえて、みんなの「だっただらいいな」を集めて、新しい子育てや保育、暮らしを作る真ん中に『ちいさいなかま』をドーンとすえて、子どもへのいいね！を増やしましょう。

保育のこれからを「しよ」に考えていける
「なかま」であり続けたい

西川由紀子さん 京都華頂大学

五〇周年おめでとうございます！『ちいなか』の特徴は、保育者と保護者と研究者が同じ記事を読むところにあると思います。「読者のページ」がそのシンボル。そうか、そんなふうには保育者は今を過ごしておられるのかと、学ぶことができます。毎号を隅々まで読んでいるわけではないのですが、手軽で、隙間時間に読める魅力がある、この『ちいなか』のつながりがこれからも広がっていきますように。

個人的には『ちいさいなかま』をとおして、たくさんの方と出会わせていただきました。なかでも「かみつき」についての原稿を書かせていただいたことで、全国のみなさんとほんとうに出会える機会を得ることができて、ありがたかったです。その後も、編集部から「お題」をいただき、悩みながら「考える」機

会をたくさん得ました。これからも、保育のこれからを「しよ」に考えていける「なかま」であり続けたいです。よろしくお願ひします。

東日本大震災時、
園や地域を越えたつながりを実感

大橋巴津子さん 宮城県石巻市釜保育所所長

保育学生のころ、たまたま本屋で手に取った『ちいさいなかま』、それ以来ずっと読者です。小さい本の中に子どもしたこと、保護者のこと、保育のことが広い視野で書かれていて、いつも力をもらっています。

二〇一一年の東日本大震災のときには、「震災日誌」を連載させていただきました。

震災直後、宮城県のちいなか担当者から、一人の読者と連絡が取れないとの安否確認がありました。手がかりを求めて、担当者と一緒にその読者の方の保育所を目指して出かけました。津波で橋はなくなり、元々あった道路もわからない状況だったのですが、なんとか保育所を捜しあて、読者の方と涙の再会とな

.....メッセージ

りました。聞けば、大きな揺れの時点でマニュアルどおりの避難場所では危ない、もっと高いところへ逃げなくてはと思ったそうです。「私が責任取るから新しい保育所に避難するよ」と職員に告げ、四月開所予定だった高台の保育所にすぐ避難し、大津波にあわずに済んだそうです。また、地域のみなさんも避難してこれ、そのまま避難所となり、そのお世話をずっとされていたそうです。

的確な判断で子どもと職員の命を守り、地域のみなさんも支えてきたことを知り、公立保育所が果たす役割の大きさを私は学びました。この貴重な経験は、ずっと伝えていきたいと思っています。

そして「震災日誌」の連載中は、読者の方から多くの励ましをいただきました。同じ地域や場にいなくても、私たちの思いに共感していただいたり、心配をしていたり、自分ごとでもうれしく、さすが『ちいなか』と想ったものです。『ちいさいなかま』五〇周年、おめでとございます。

こんなときこそ
『ちいさいなかま』

長瀬美子さん 大阪大谷大学

厳しい状況が一年以上続いています。保育者のみなさんと保護者のみなさんに、心から感謝と敬意をお伝えします。

連載を機に、「ちいさいなかま読みました」と声をかけていただくことが増えました。離れていても、今は会えなくても、『ちいさいなかま』をとおして、こんなふうによくの人とつながっていることを感じています。

目の前のことに精いっぱい毎日の中で、「学び」や「かかわり」がむずかしくなりました。でも、人間は学ぶと元気が出ます。交流すると明日への力が湧いてきます。本当に不思議なことです。集まって、顔を見合わせて、子どものこと、保育や子育てのことを話せるのが一番です。でも、それができないからと言って「学び」も「かかわり」もあきらめることはありません。誌面をとおして、子

どもの姿に癒されたり、保育や子育てのことを語ったり、他の実践から学ぶことができま
す。私たちには『ちいさいなかま』がありま
す。これまでも、これからも。

兵庫のちいなかニユース
「すてきななかま」は二年二五二号!

朝倉ユミさん 兵庫県保育所運動連絡会「ちいなか」担当

我が家の本棚の一番古い『ちいさいな
ま』は一九八八年発行。クラスには私より先
に愛読していた保護者がいました。出会
いは、勤務先の小児科の待合室の棚に置いて
たとのこと。その方は定年退職された今でも
時々、事務所をのぞいてくれます。

『ちいさいなかま』と思うだけで、たくさ
んの保護者たちの顔が浮かびます。夜遅くま
で働いているのに、日曜日の「ちいなか読者
会」は必ず参加してくれた焼き鳥屋のおかあ
ちゃん……。また、『ちいなか』をすすめる
きに「私の愛読書です」と手紙を添えて、保
護者に見本誌を渡し、何人が読者になつてく

れるか、楽しみでもありました。

兵庫のちいなかニユース「すてきなな
ま」は息子が生まれたときから毎月発行して
います。息子も二歳、ニユースはNo.二五一
になりました。合研はいつのまにか家族旅行
になり、「お母さん、笑うのも勉強なん?」
「泣くのも?」「寝るのも?」と横からコメン
トを入れながら、風船をついていた息子の姿
も思い出します。今は、縁あって、兵庫県保
育所運動連絡会の事務所です仕事をさせてもら
っています。保育現場は離れましたが、『ち
いさいなかま』が仕事になりました。こんな
幸せなことはありません。これからもきつと
『ちいさいなかま』と一緒にです。

「育児いとかし…」は今でも家族の宝物

やまだりようこさん

(「育児いとかし…」二〇〇二年四月号〜二〇一六年三月号連載)

二〇〇二年四月号から一四年間、マンガ
「育児いとかし…」を連載させていただき
ました。連載当初、一歳だった長女のなつき

.....メッセージ

が今は大学生、連載中に生まれた長男りゅうとは、高校生となりました。

創刊 50 周年
おめでとう
ございます！



子どもたちのマンガを描いていてとてもよかったのは、マンガのネタをいただくために、日々おもしろいことをやらかしてくる子どもたちのことをよく見ていたということ。何気なく過ぎる日常も、見て、描いて、笑って…という流れのなかで記憶に焼き付き、今でも鮮明に思い出すことができます。「育児いとをかし…」は、今でも家族みんなの宝物です。

100周年を屈指して
いきましょー！

平松知子さん 愛知県名古屋市長の木の保育園園長

私たちの雑誌、『ちいさいなかま』50周年

おめでとうございます！『ちいさいなかま』のよさの一つに、「お手頃サイズ」というものがあります。通勤バッグにひょいっと入れて、通勤途中の電車の中で読んだりする人は多いのではないのでしょうか？私もその一人です。

あるとき、地下鉄通勤途中に視線を感じて向かい座席の人をふと見ると、その人も『ちいさいなかま』を読んでいるではありませんか！もちろん私も同じ号の『ちいさいなかま』を読んでいます。お互いなんとなく笑顔でベコリ。言葉は交わさずとも、『ちいさいなかま』を読んでいるというだけで、「ああ、あなたも子どもたちの平和な未来を願い、子どもだけでなく、私たち保護者や保育者もしあわせになろうってがんばる仲間なのね」っていうなまずき合うのでした。

そんな、『ちいさいなかま』を手にするおっきいなかまは、今日も全国で同じ願いをもって仲間を増やし続けています。そして、100周年を屈指していきましょー！